

伝統と革新

自動車関連企業の挑戦

42

協和工業は、自動車や産業用機械のステアリング装置などに使われるユニバーサルジョイント(継ぎ手)の専門メーカー。形状が複雑なジョイントの冷間鍛造に日本で初めて成功するなど、独自の生産技術の開発に力を入れてきた。

創業は1942年。豊田自動織機製作所(現豊田自動織機)の自動車部で腕を磨いた鬼頭光治氏がゲージ職人として創業した。

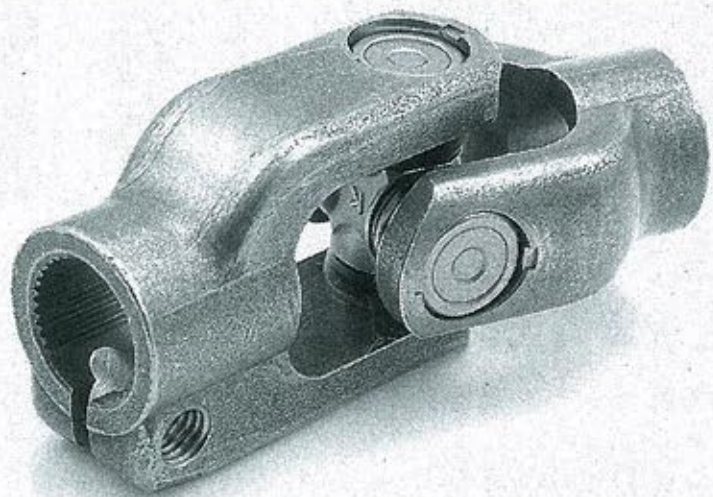
52年に豊田工機(現ジェイテクト)からの依頼で、トヨタ自動車工業(現トヨタ自動車)のエンジン生産設備のジョイントを制作。10年間ト



鬼頭佑治社長
使用され
た。62年に
市販を開始
し、農業機
械向けの製

協和工業

日本初の冷間鍛造成功 独自生産技術開発を推進



主力製品のステアリングジョイント

ものを生産するには冷鍛しかない。職人魂で開発した(鬼頭佑治社長)。1割から5割に引き上げる目標を常温かつ1回の成型で加

工できる金型を開発。品質とコスト競争力の高い製品の量産に成功した。新しいジョイントは80年代にスズキやタイハツ工業の軽トラックに採用された。製品設計や生産技術、市場開拓にこだわる。金やデモ機まで100%内製化し、全な自社ブランドのジョイントを開いている。

「常に最適なやり方で生産する(鬼頭社長)ためだ。ジョイントは小型でありながら高い強度と精度が必要。性能やトータルコストなどを考慮し、あえて他社が選択しない産方法を用いることもあるという。将来に向けた開発のための人材成が今後の課題。鬼頭社長自らが頭立って若手社員を指導して「単なる御用聞きではいけない。独自の発想で技術もマーケットも発しなくては」と力を込める。

品を量産。ジョイント専門メーカー「カローラ」に採用された。それがきっかけで、ホンダや日産自動車に

冷間鍛造品の開発は77年。当時、常温で成型する冷間鍛造で複雑な形状のジョイントを作るのは不可能だとされていたが、「安く、早く、良

ユニバーサルジョイント専門メーカー

△会社概要▽本社：大府市横根町坊主山1の31。1942年創業。53年に協和精器製作所を設立、65年に現在の社名に。2013年12月の連結売上高は35億円。従業員数は約150人。